



この記事がすごい! 毎日新聞今週のこだわり4本

2020年11月22日号

編集 / 毎日新聞社販売局D.クリエイションセンター



「コロナとがん」 25日(水)から=くらしナビ面



4月、俳優の岡江久美子さんが新型コロナウイルス感染による肺炎で亡くなった際、「乳がんで放射線治療をしていたため、免疫力が低下したのではないか」という風説がありました。放射線治療で免

疫力が低下することは、ほぼありません。新型コロナとがんに巡る疑問に、6回にわたって専門家が答えます。初回は、がん研究会有明病院名誉院長の山口俊晴さん=写真=です。



ヤングケアラー問題 埼玉県が調査

26日(木)=1面、2面

通学や仕事をしながら家族の介護・世話をする子ども「ヤングケアラー」問題で、埼玉県内の高校2年生全員(約5万5000人)を対象とした実態調査の結果を、県が25日に公表し

ます。自治体による子ども本人への調査は全国初で、政府が来春にまとめる全国調査に先駆けて、家族ケアの負担や学業・生活への支障など、深刻な実態が明らかになりそうです。



「フォークシンガー、小室等さんが語る コロナ禍の不条理」

24日(火)=夕刊特集ワイド

日本のフォーク音楽の草分けであるシンガー・ソングライター、小室等さんが23日で77歳。半世紀以上にわたって「プロテストソング」を歌い続けてきたフォーク界のレジェンドは、「喜寿」を

迎えてなお精力的にメッセージを発信しています。そんな小室さんは、政府や自治体が自粛を強いているコロナ禍の不条理に納得できないといいます。小室さんにインタビューしました。



論点 義務教育30人学級導入の是非

27日(金) オピニオン面

小中学校の1学級の人数は現行では上限が40人(小1は35人)ですが、コロナ禍を機に「30人」への引き下げの機運が高まっています。文部科学省は学級規模を定めた義務標準法の改正を視野に、来年度予算で経費を要求しましたが、財務省は教育効果を疑問視し慎重です。

予算編成を巡り年末まで攻防が予想されます。学級の適正規模について校長や識者に聞きます。



22日から開幕する第91回都市対抗野球大会。今年チームの出場するのは、なんと初戦から推しが決まっちゃいました。対決の白星も見届けた。どっちの白星も合わせかけた瞬間、頭の推しは真っ白。とは言え、中には同時に見られるというメリットもある。それと、思ふことにしても、当日は双眼鏡を忘れないようにしないと。1年以上楽しみにしていた本大会。サンデー増刊号を開いては、脳内で行われたいと思ひます。

(川口真由)



※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。